

2024年度 2学期終業式

皆さん、おはようございます。

クリスマスが近づいてきています。カトリック教会においては12月1日の日曜日から救い主イエスのご降誕を迎えるための準備期間、待降節が始まりました。日曜日の度にろうそくの灯が1つずつ増えていき、昨日12月22日の日曜日に4本のろうそくすべてに灯がともりました。明日24日の日没後にはクリスマスをお祝いすることとなります。私たちはクリスマス直前の今日、2学期の終業式を迎えています。2学期の締めくくりにあたり、この学期を一緒に振り返ってみましょう。

2学期は行事の多い学期でした。

9月には所沢市民体育館にて、保護者の方に加えて、今年はOGの方の参観も叶い体育祭を行うことができました。準備の段階からここ数年で最も皆さんの熱意が感じられました。コロナ禍に入る前の活気を取り戻したように思いました。当日は皆さんの熱気に押され、私自身も心の高まりを覚えました。嬉しさと悔しさが入り交じり、達成感と充足感に満ち、お互いにエールを贈り合う姿が素敵でした。学年の結束が最も固くなり、皆さんの成長が感じられる日となりました。

10月はじめには、中1は上野へ、中2は清澄白河へ校外学習に出かけました。班ごとに親睦を深め、日頃と異なる学びができました。中3は東北へ、高2は京都・奈良へ3泊4日の修学旅行に行きました。寝食を共にすることで、お互いのかかわりをさらに深め、共通の多くの思い出をつくり、訪れた地での様々な出会いを通して、学年全体が成長し、自信をつけて帰って来てくれました。

11月17日(日)には親睦会が実施されました。保護者、卒業生、皆さんが招待した方、光塩の受験を考えている小学生とその保護者の方々など、多くの方がご来校くださいました。ゲームコーナー、お化け屋敷、喫茶ルームなどの学年企画をはじめ、ふじなみ会の焼きそばやおやじの会の甘酒、ポップコーンや魚つり、スピードくじなどのお店も賑わいました。昨年につき NPO 法人聖母との協働で光塩バージョンのマラウイコーヒーも販売できました。あらゆる企画を通して、皆さんの笑顔があふれる、「もう一人の友」のために奉仕する一日となりました。

11月末には皆さんお一人おひとりからの誕生日のお祝いカードをいただきました。各クラスで素敵な表紙を描いてくださった方、今、光塩生として何を楽しんでいるかを報告してくださった方、今、興味を持っていること、「推し」について紹介してくださった方、さらには私の良いところを探して、それを伝えてくださった方。皆さんからの心温まる「ことば」やイラストのプレゼントに慰められ励まされ、ますます頑張ろうという気持ちになりました。今年は、長く嬉しい気持ちに浸るため、一日1学年ずつゆっくり読み進め、一週間うきうきと幸せな気持ちで過ごせました。心より感謝申し上げます。

先週、12月20日(金)にはメルセダリアンホールにて、クリスマス会が行われました。合唱コンクールにおいて6学年がお互いの歌声を聴き合うことのできる喜びを味わいました。ベリス・メルセス宣教修道女会のローマ本部から日本ミッション責任者のシスター クリスタ・ナミオが来校してくださり、お言葉をいただきました。さらに皆さんの歌声、発表を最後まで味わってくださいました。それからアンサンブル部・合唱部の発表、高2有志の方のオルガン演奏も心和む時間でした。さらに、中3有志による発表を聞き難民の方々のために私たちに何ができるのか皆で考えました。最後に、アルペ難民センターの松

浦由佳子先生による講演「～難民と共に歩む現場から～暗闇に希望を」を通してクリスマスの意味について考え、これまでの振り返りと祈る時間を持つことができました。

このように、皆さんはこの2学期に多くの行事を通して、充実した時間を過ごし、今年度の目標「他者に向かって開く」(他者とのかかわり)を実現してきたと言えるでしょう。

ここで、クリスマスを前に、もう一度、この「他者に向かって開く」の最終目標アガペーについて考えてみたいと思います。かかわりの中で、自分だけではなく自分も良いし、相手にとっても良いという状態が長ければ長いほど幸せで良い関わりになっていきます。これがアガペーの実現と言えるでしょう。とは言ってもいつもうまく行く訳ではなく、皆さんも、この2学期、行事も含め共に過ごすことが多かった分、他者とのかかわりの中で悩むことも多かったのではないかと思います。それでも、時々、立ち止まり振り返り、より良い視点を持ち直し、歩みを新たにすることは大切なことだと思います。この自分にとっても他者にとっても良い状態をあらわす言葉として「ウェルビーイング」という言葉があります。この「ウェルビーイング」を長年研究していらした前野隆司・前野マドカ夫妻はその著書「ウェルビーイング」(日経文庫)の中で、「幸せ」の4つの因子を紹介してくださっています。「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」です。

1つ目の「やってみよう」因子は、夢や目標を持つこと、ときめきやワクワク感をもってやってみようとする事です。皆さんが2学期に体験したこととしては、体育祭の対抗競技、応援合戦、先日の合唱コンクールなどもその例としてあげられると思います。みんなで協力して何かをやり遂げる、何かを作り

上げていく「ときめき」や「ワクワク感」、素敵ですね。これからは光塩祭に向けて体験できそうですね。他にないか個人的にも探してみてください。

2つ目の「ありがとう」因子は、つながりと感謝の因子、何事に対しても感謝すること、気遣いや思いやりを持って他者と接することのできることに、利他的な行為を行うよう心がけることとのことです。11月に行われた親睦会における奉仕、その前段階からの準備、装飾委員会による飾り付けなどはこれにあたると思います。親睦会の学年企画などでお客さんの笑顔を想像しながらワクワクして準備したり、訪れる人が感激する姿を想像しながらときめいて綺麗な装飾をしたりしていくことは、1つ目の「やってみよう」因子とダブルで実現できていることになりますね。これからクリスマス、お正月を迎えます。一年の節目にあたり改めてお一人おひとりの「ありがとう」因子を探してみてください。

3つ目の「なんとかなる」因子は、幸せであるように振舞うこと、無理やりでも口角を上げて笑顔をつくる、上を向いて大股で歩く、自分に対しても他者に対してもポジティブな見方をすることです。最も身近にできることとして笑顔で挨拶をすること、微笑むことが思い浮かびます。辛いことや不安なことがあってもそれはいつまでも続くものではありません。しばらくの我慢の時です。笑顔で過ごせば必ず何とかかなります。以前、中2以上の方には「一日に3つ良かったことを思い出して書き出してみましよう」というお話をしたことがありますが、応用編で一日に誰にどれぐらい笑顔で接することができたかを振り返るのもアガペー実践の秘訣かもしれません。よろしければ試してみてください。

4つ目の「ありのままに」因子は、独立性と自分らしさを保つこと、揺るぎない自分軸を持つこと、自己を確立すること、自分らしさを自覚することとのことです。自分が他の人からどのように見られているかを気にしていると、他

の人のことが気になり、萎縮したり嫉妬したり惨めな気持ちになったりします。今の自分を大切に認めてあげてください。そして、何かに励むこと、何かに挑戦することを続けてください。

是非、ときめきやワクワク感を持って「やってみよう」、そしてやってみることができていることに感謝し、自分ばかりでなく誰かのためにも「やってみよう」、辛いことや困難なことがあっても「何とかなる」、そして自分は自分、他者は他者で素敵、「ありのままに」たくさんの素敵を見つけていきましょう。

それでは良いクリスマスと新年をお迎えください。ごきげんよう。